

草木叙情

伊藤 秀五郎

(日本山岳会名誉会員)



ハイマツ

厳しい長い冬だった、
気の遠くなるような。
真の試練のなかにだけ
人間の証がある、
というけれど。

黒百合

あの深い暗黒の奥から来ました。
黒白鳥はそういつて、
水辺の果てに飛んでいった。

エゾシャクナゲ

手を握って下さい、しっかりと。
わたくしたちの会話が、

山稜の岩角に鳴る風に
吹きちぎられて、
と絶えてしまいます。

黄水仙

わが身、憂いなし。

天を讃え

地に頷く

サンタマリア——

こうほね

君 いづこに生れ給うや

かの暗黒の果て、寥落たる水のほとり

君の名をきかせ給へ

幼きころより、こうほねと呼ばれぬ

君の姿、清楚にして気品あり

母君に似たるや

知るよしもなし

水面をわたる風みなもにきかれよ

わがつぶらにして黄なる花は

かりそめのもの

君もし触れなば

たちまちにして

露と消えなん